

震災の教訓 復興への思いは被災地とともに

～わたしたちは忘れない～



発行所
〒107-0052 東京都港区赤坂
7丁目5番38号
公益社団法人
日本PTA全国協議会
発行人 尾上浩一
電話 03(5545)7151
FAX 03(5545)7152
ホームページアドレス
<http://www.nippon-pta.or.jp/>

綱領

本会は、教育を本旨とし、特定の政党や宗教に偏ることなく、小学校及び中学校におけるPTA活動を通して、我が国における社会教育及び家庭教育の充実に努めるとともに、家庭、学校、地域の連携を深め、子どもたちの健全育成と福祉の増進を図り、もって社会の発展に寄与する。

主な内容

1面
・1.17.3.11 震災について ・きざし
2面
・心のぎざな61 教育支援基金 事業報告 ・水俣とフクシマ
3面
・被災地より ・日P災害支援活動
4面
・国内研修事業 ・第37回広報 紙コンクール 募集要項
5面
・防災教育TOP対談 ・楽しい子育て 三行詩優秀作品 ・県P自慢 ・学校の窓から
6面
・実践事例ガイド ・委員会活動報告
7面
・委員会活動報告
8面
・全国大会札幌大会 ・日本PTAとは ・そよ風通信

平成27年1月17日「阪神淡路大震災1・17のつどい」が神戸市中央区の東遊園地で行われました。兵庫県出身で自身も阪神淡路大震災を体験した尾上会長をはじめ、日本PTA役員が追悼と希望への祈りをこめて、竹灯ろうに火を灯しました。また、尾上会長は「1・17のつどい阪神・淡路大震災20年追悼式典」にも、来賓として参列しました。

笑顔とともに学べる環境づくりを

公益社団法人日本PTA全国協議会 会長 尾上 浩一

私たちは、大震災の経験と教訓を決して忘れることなく、地域や世代を超えて伝え続けていかなければなりません。

阪神・淡路大震災の発生から20年が経過し、東日本大震災からは4年が経過しました。被災された皆様には、慎んでお見舞い申し上げますとともに、ご遺族の方々には哀悼の誠をささげたいと存じます。

日本PTAでは発生当初より、全国の各協議会をはじめとする多くの方々に支援を募り、私たちの仲間や子どもたちを中心とした支援の在り方を形にし、実行してまいりました。阪神・淡路大震災では、見舞金支援及び公益信託基金を立ち上げ、被災者の教育資金の援助及び心のケアに努め、東日本大震災でも同様に、見舞金支援及び教育資金の援助等を行ってまいりました。しかし、まだまだ被災された我々の仲間や子どもたちが本来の生活環境を取り戻せず、また故郷を離れ新たな地で生活を

されているのが現状であります。阪神・淡路大震災が起きた当初は、携帯電話も不通となり、当時はまだインターネットは普及しておらず、テレビ、ラジオ、新聞あるいは口コミに頼って情報を得ていました。しかし、東日本大震災では津波の様子はSNS等を通じて瞬時に世界中に発信され、様々な情報があふれ、必要な情報にアクセスする能力や、取捨選択するリテラシーが問われる状況になり、情報伝達・把握の在り方も新たな課題として浮かび上がりました。

阪神・淡路大震災では、復興していく過程で新たに生まれた取り組みや成果を更に発展させるとともに、「自助7割、共助2割、公助1割」という教訓が生まれました。それは、「自らの安全は自らが守る」ことを前提にした減災・防災対策に生かされております。

また、課題については、十分に生かされなかった知恵を発信し、同じことを繰り返さないようにこれらのことを東日本大震災の復興にも活用できるとして運用を進めていきます。

もに支援要請・要望等を積極的に働きかけてまいります。上げ台などを購入でき、戻った今も活用できていくことに感謝されています。

更地となった宮城野区中野小学校跡地と爪痕の残る若林区荒浜小学校を訪れ、震災当時の校長先生と現校長先生、ならびにPTA関係者や地域住民など多くの方々や荒浜地区追悼式を行い、犠牲者を悼みました。また、全国のPTAからの支援のお礼と継続した取り組みへの感謝をいただきました。

名取市追悼式

3月11日、日本PTA役員は被災3県を訪れ、協議会会長らとともに追悼式に参列しました。被災地の現状・子どもたちが今何を必要としているのかを実感し、今後子どもたちに寄り添った支援を行なっていきます。

専務理事 寺本 充

岩手県・野田村合同追悼式

前日からの荒天にも関わらず、会場には約500人の関係者が参列し、東日本大震災で犠牲になった人々を悼みました。

「犠牲になった人々たちのことを忘れないでほしいと言いません。ただ、時々でいいので共に生きていくことを思い出してください。」と、遺族を代表の方の語りかけに、会場では亡き人を想い、すすり泣く人の姿もみられました。

28人の村民が津波の犠牲になっっている同村では、被災した村中心部に、津波から住民が避難できようとして高約15メートルのビルを、今年度中にも建設することになっていて、震災を教訓に災害から住民を守る事業を今後も進めていくという事です。

仙台市・荒浜地区追悼式

津波による校舎損傷や校門付近・近隣の土砂崩れのため、3年間隣の折立中学校を間借りしていた青葉区折立小学校を訪れ、菅原校長と面談致しました。全国からいただいた義援金で鉄棒や小学生には深すぎた中学校のプールの底

「これまで学校では、PTAや地域社会の協力を基に、安全確保の危機管理マニュアル作りや防災教育の実施などに取り組んできました。全国各地でも地域防災への意識が高まり、防災訓練への自主的な参加が多くなりました。自分や身近な人の命を守り共に支え合うために、学校と家庭、PTAや地域社会が一体となって防災意識を高め、組織的に活動することの大切さを感じています。」

常務理事 加藤 寿一



阪神淡路大震災1.17のつどい



3.11 福島県・東日本大震災追悼復興記念式



希望を乗せた風船・荒浜地区追悼式にて

本紙は各校PTAに、「校長・教頭用」、「PTA会長・役員用」、「広報委員会用」、「事務局員用」を目安に配布しています。

東日本大震災は、震度7の強い揺れとともに大津波を発生させ、甚大な被害を及ぼしました。あれから4年。大震災後の課題は、日本人としてこの事実を決して風化させずにはならないことだと思います。

▼「稲むらの火」の話を存じの方も多いと思います。安政元(一八五四)年、安政南海地震が紀伊国広村を襲い、大津波が押し寄せました。このとき、濱口梧陵(はまぐちこうりょう)は、自分の田にあった収穫したばかりの稲むらに火をつけました。火事だと思い、多くの村人が高台にある梧陵の屋敷にかけ参りました。燃える松明は避難路を示す明かりとなり、速やかな判断と誘導は、村の9割以上の人々の命を救うことができました。現在、この広村の地では自主防災組織が作られ、避難誘導灯が設置されるなど、梧陵の精神が受け継がれているそうです。▼東日本震災の翌年、宮城県のある中学校を視察しました。学校は津波で学区全域が浸水し、地域住民の避難所となりました。しかし、多くの生徒が自主的に活動する姿は、PTAや地域の方々の心の拠り所になり、生徒が差し出す一杯の汁物に笑顔が広がったことでした。

東日本大震災 子どもたちが描く未来に寄り添う支援を

～4年目の子どもたちは今～

宮城県PTA連合会 会長 高城 裕行



仮設住宅の前でスクールバスを待つ小学生

3年前に仮設住宅から入学式に出席し、この3月に仮設住宅から卒業式に出席という中学生が多くなります。復興住宅の建設や宅地の整備が遅れに遅れ、今でも仮設住宅から多くの子どもたちが通学しています。そこでは、狭い部屋で勉強部屋も無く、厳しい学習環境に苦しんでいる子どもたちがいますし、地域経済の

復活もままならず、経済格差が進学断念などの教育格差を生んでいる状況がますます深刻になってきています。さらには不登校の子どもたちが増えていることが気になって心のケア対策が急がれています。未だに仮設校舎5校、間借り校舎での学校が5校、さらに校庭に仮設住宅がある学校が26校もあり、運動場が使えないなどの遊び場の不足、部活動の制限などの不便な学校生活も改善されていません。このような状況でも被災地の子どもたちは全国各地からの多くのご支援に感謝しながら、厳しい環境にも負けず明るい未来に向かって精一杯の学校生活を送っています。

一般社団法人岩手県PTA連合会 会長 金谷 茂



陸前高田市での被災地学習の様子

通常の活動に加え、公益法人改革と保険業法改正の対応業務がピークかと思われていた時、想像を絶する甚大な被害をもたらした東日本大震災に襲われました。余震が続く中の度重なる様々な会議、被災市町村の会費免除や弔慰金支払い、流失した中体連の優勝旗等の贈呈、頂いた義援金の被災PTAへ公正に分配な

「新たな可能性」「未来への輝き」へ転じるよう、子どもの笑顔づくりを合言葉に、情報の収集と交流活動、義援金募金活動、「PTA希望文書」支援活動によってPTA会員同士等が「未来をつくる仲間」として心を開き、語り、より高め合えるよう活動支援を行っています。

福島県PTA連合会 顧問 佐藤 辰夫



未来を担う中学生の集い

東日本大震災から4年がたちました。本県は地震、津波による自然災害と、原発事故による放射能、これに起因する風評など、今も多くの課題を抱えています。震災・原発事故後は子どもたちの避難流出が止まりませんでした。しかし、4年たった今では、多くの皆さんの努力により子どもたちの環境整備も進み、戻ってくる子どもも少しずつはありますが増えています。

三宅島噴火災害 平成12年7月1日 (伊豆諸島災害) (三宅島災害) 東海豪雨 平成12年9月11日 鳥取県西部地震 平成12年10月6日

本会では、震災・原発事故後に子どもたちの3つの権利である「生きる権利」「育つ権利」「学ぶ権利」を私たち大人の義務に置き換えて活動を進めてまいりました。その中に「心のケア」「リフレッシュ事業」と「教育」水俣交流事業」があります。特に「水俣交流事業」は2年目となる今年度、日本PTAの支援をいただき実施いたしました。水俣市の約60年にわたる差別、偏見といった人権問題や環境問題を私たちは学び、福島に生きる子どもたちの将来の指針を示すことが必要であると考えています。この事業は今後も継続します。

仙台市PTA協議会 会長 黒田 達也



学校跡を訪問した中野小卒業生

東日本大震災で亡くなった方が仙台市は900名を超えております。ほとんどが津波によるものです。仙台市立中野小学校と荒浜小学校はすぐ目の前に海が広がっています。大震災の時には校舎2階天井まで津波が来ましたが、何とか3階や屋上に避難して難を逃れ、自衛隊のヘリコプターなどで救助されました。その時に、子どもたちが校舎から眺めていた光景は、自分たちが遊んだ松原、通学路、自宅

があつという間に波の下に沈み、家や車や人が流されていくものでした。中野小学校の校舎はもう取り壊され更地になっております。荒浜小学校は校舎だけが当時のまま残されています。両校とも来年度で廃校されることになりました。中野小学校の子どもたちが、卒業にあたって校舎跡地を訪問しました。しかし、その顔にはうれしさに元気がなくなり、子どもたちが涙を流して泣いていました。子どもたちは新たな夢や希望が一杯溢れているようです。その笑顔に、子どもたちが先生方に贈りました。震災から4年、これからもずっと被災した子どもたちの心に寄り添いながら、笑顔で未来に向かって進んでいけるように支援を続けたいと思います。

災害支援活動

日本PTAは、創立当初から全国の協議会の協力のもと、多くの困っている子どもたちへの支援を行ってきた。東日本大震災については、現在も支援活動を継続している。

災害及び支援名	支援内容
九州地区風水害 (昭和29年)	PTAの「援け合い」運動を展開(日P新聞第2号)
炭鉱地帯児童・生徒の救済運動 (昭和30年)	「PTAとしての援け合い運動」↓福岡・佐賀・長崎3県における炭鉱が廃坑となった影響により、欠食児童・生徒へ森永製菓より学校給食用強化スナック6千人分の寄贈を受け、現地3県PTA協議会宛に送る。 各地協議会へ義援金を募る。 大分・鳥取・宮城・静岡・新潟・岐阜の各県、神戸・名古屋・横浜の各市から46万有餘円の義援金。岡山県から鉛筆5万5千本。日本PTAからは森永強化スナック60人分等が現地に送られた。その後、各県より計176万2千118円が集まった。また愛知県一宮中部中学校より鉛筆1千本が、地元福岡、佐賀、長崎の3県に発送された。義援金総額は222万4千723円に達した。
原爆被災児童救済 (昭和31年)	PTAとして原爆記念日を前に、全国PTA会員に呼びかけ、恵まれない子どもたちの実情を訴え、治療費その他教育扶助のための義援金を募る。
伊勢湾台風被災児童への義援金 (昭和34年)	「伊勢湾台風災害地に愛の手を」と1円募金を呼びかけ、2度の呼びかけで義援金総額は355万5千円に達し、被災地へ送られた。
雲仙普賢岳大噴火 (平成3年6月3日)	「日P全国大会高知県大会」で募金活動を行う。災害見舞金として356万7千円を長崎県に贈呈。
北海道南西沖地震 (平成5年7月12日)	「日P全国大会山形大会」で募金箱を設置。全国に義援金を募り、2億4千910万3千429円贈呈。 奥尻の子に夏休みをプレゼントするため宮崎県に招待。この支援活動は宮崎県PTA連など28団体によって行われた。
阪神淡路大震災 (平成7年1月17日)	・1月18日全国へ義援金の協力を募る。 ・義援金総額5月19日現在で1億4千387万9千997円に到達 ・2億3千61万2千648円は兵庫県や神戸市など被災地に贈呈。 ・10月31日義援金11億5千5万円の有効活用のため「公益信託阪神・淡路大震災遺児就学援助金」を設立。 ・給付対象は、平成7年4月1日現在小中学校に在籍しており震災で保護者を亡くした児童、生徒。 ・助成は3種類：①就学援助金の入学祝い金②教育活動助成 ①小学生月額2万円 中学生月額3万円 ②震災で保護者を亡くし今後3年間に小学校へ入学する子に入学祝い金として10万円を給付 ③被災地の小中学校の教育活動の助成は、十市十町の小中学校などに、震災で失った物品購入費や遠足費用などとして支給した。 ・震災後3年で総額11億8千円の義援金を贈る
有珠山噴火 (平成12年3月31日)	・有珠山災害に対する義援金は平成12年7月5日で9639万4千750円に到達。 ・全国から寄せられた義援金1億2千500万円が8月5日北海道胆振西部地区PTAに贈呈された。
三宅島噴火災害 (平成12年7月1日) (伊豆諸島災害) (三宅島災害)	・伊豆諸島災害義援金の募金活動を始め、9月14日都立秋川高校に遊難している三宅島児童生徒に対し、義援金500万円が贈呈された。 ・全国PTAに呼びかけ、平成13年1月末までに総額1億2千100万円余りが寄せられる。 ・内1億円は「伊豆諸島噴火災害・被災児童就学援助基金信託」として不安定な環境の下で学校に通う子どもたちの就学援助金として給付し、勉強費用の助成を行う。また、残る2千100万円余りは義援金として東海地方・鳥取県に贈呈することとなり、中学生月1万円、小学生月5千円の就学援助金を贈った。

心のきざずな61教育支援基金事業報告

福島・水俣の春を夢見て

福島・水俣教育交流事業報告会

実行委員長 中村 慶治

福島と水俣の交流が始まって3年目の冬を迎えました。震災の翌年1月に、「水俣の教訓を何とか福島へ届けたい。」との一心で始まったこの交流会は、たくさんの方々の理解と協力を得ながら大きく発展してきました。

水俣は故郷を破壊され、絶望の中から未来に希望をつなぎ蘇生してきました。それは、先人たち一人ひとりの勇気あ

人に「生きる力」を与えるのは何か。それは、自分以外の誰かのために生きようという「人間の絆」ではないでしょうか。「人のため」に行動するとき、自分自身の生命力も

福島・水俣交流事業

「生徒交流学習会」福島報告会

実行委員長 山岸 波

中学生による福島・水俣「生徒交流学習会」の報告会が、2月21日、福島県青少年会館で開かれました。

この事業に参加した福島県の中学生と保護者、教育関係者、実行委員、この報告会に出席したいと申し出た中学生十名ほどを含む約百名が参加



など、多くの意見が出されました。この事業を通し、遠く離れた互いの都市の中学生がお互いの現状を知り、確かな知識や情報をもとに行動することの大切さを学びました。「覚悟・魂・希望」をもって生きるという郷土を思つ気持ち

後どのようになりたいか、行くべきかなど、短時間の中で、一人ひとりがそれぞれの思い・考えを出し合い討議し、これから自分たちで取り組んでいくアクションプランについて発表しました。「福島に人を呼び込むツアープロジェクトを提案したい。」



「水俣から福島を発信したい。」と具体的なアクション・プランを作成し、実現に向けてすでに動き出しています。

山口 ドリームチャレンジャー 2014 in 徳地 報告



山口県PTA連合会では、東日本大震災による原発事故発生以来、夏休み期間は子どもたちに県外で過ごしてもらいたいという「南相馬こどもつばさ」の想いに賛同し、2012年より受け入れを行ってきました。2014年は小学5年生の女兒2名が山口県への参加を希望しました。

7月31日、午後3時40分着の新幹線を出迎えるため、新山口駅に集合。子どもたちは福島県を午前中に出発しているため、長旅で疲れてはいないだろうかと、改

札口の遙か遠くより「アナと雪の女王」の歌が聞こえてきました。二人はとても活発で明るく、初めての山口県にすぐに馴染んでくれました。8月1日～3日は、山口県PTA連合会主催の「ドリームチャレンジャー2014 in 徳地」に参加。山口県内の小学4年生～6年生の72名の児童とともに自然の中で3日間の共同生活を送りました。沢のぼりやキャンドルサービスなどの活動を通し、多くの子どもたちと交流を深め、友情を育みました。8月4日～5日は、山口県の観光地を案内。美祢市の景清洞での洞窟探検、秋吉台サファリランド、下関市の海響館などをめぐりました。中でも水遊びが好きなようで、川に入ったり、磯の生物に触ったり、ずぶ濡れになりながらも夢中になっていました。見送るまで、「アナと雪の女王」を何回歌ったことでしょうか。二人とも山口県に住みたいと言って私たちが喜ばせてくれました。

水俣とフクシマ

会津坂下町立坂下中学校3年 田崎 杏

「正直にいきることが大切だ。」とつぶやいたのは、水俣市の語り部の方でした。福島県が恐怖と不安にいつまいた3月11日。誰よりも早く応援メッセージを送ってくださったのは、熊本県水俣市の市長さんでした。「水俣病で水俣市民は大変ひどい偏見や差別を受けてきました。今回原

子が力発電所の問題は、水俣病のこれまでの経験と重なり合う部分があわせて多く、水俣病の教訓を発信している水俣市としましては、今後のことが心配でなりません。水俣病のような悲しい経験を繰り返してはいけません。国内外の人々が互いに協力し、一日も早い復興に努めていきましょう。」と私たち福島県民を心配する気持ちと、共に頑張ろうという気持ちを込めて、メッセージを送ってくださったのです。このメッセージがきっかけとなり、福島県内の中学生40人が、熊本県水俣市を訪問したのです。この事業で私はとても大切なことを学びました。それは、「正直に生きる」ことです。このことを教えてくださった緒方さんは、水俣病で祖父と父を亡くし、自分も水俣病であるという事実を隠し続け、差別や偏見でかえって良くない結果になってしまったとおっしゃっていました。もし自分が「正直に生きて」いたら辛い人生を歩まずに済んだのではないかと今は考えている、と。

この話を聞き、今の福島市の現状に私は正面から向き合い、正直に生きていかなかったなあと

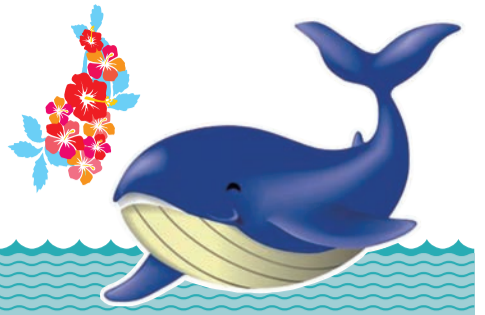


最終日、桜の木を植樹しました。次にこの桜の木と対面するのは10年後です。悲しい顔をしていた福島を、笑顔あふれる福島へかえられるのは、未来を担う私たちには、絶対に忘れない、ということを忘れず、水俣市で学んだことを生かし、福島がよい方向へ進んでいけるよう、精一杯努力をしていきたいと思ひます。10年後、笑顔と幸せに満ちた福島になったと、満開の桜に伝えたいと思ひます。※一部抜粋しました。全文は日本PTA全国協議会ホームページをご覧ください。



国内研修事業

in 渡嘉敷島



渡嘉敷島が教えてくれたこと

自然の雄大さ、平和の尊さ、人のあたたかさ

日本PTA全国協議会 副会長(国内研修事業担当) 小林奈都夫

3月29日那覇空港午後6時過ぎ。全国各地へと帰って行く子どもたちを見送ったあと、私が乗った羽田に戻る飛行機が、滑走路を走りだそうとしていました。

ふと、窓の外に目を向けると、水平線に浮かぶ「渡嘉敷島」が見え、さらに、夕日が島と海と空を真っ赤に染めていました。

4日間、子どもたちがあの島に集い、さまざまなプログラムに取組み、ともに学び、考え、笑い、涙していたことを思い出したら、前日のシュノーケリング体験の時に飲み込んでしまった海水が、自然と目からあふれ出してきました。

30年近く続いた日中友好事業から、昨年の筑波における国際交流事業を経て、沖縄県渡嘉敷島で「初めて」開催した「国内研修事業」。国立青



海がめと泳ぐ参加生徒たち



慶良間太鼓を村民に教わり、練習の成果を発表する生徒たち



力を合わせて海洋研修を頑張った仲間と共に



野外活動で火起こしからカレー作りにチャレンジ!!

渡嘉敷港旅客待合



「渡嘉敷村 松本村長を囲んで」写真中央が渡嘉敷村村長 松本好勝氏



沖縄県教育委員会 諸見里教育長と会談 前列左から小林副会長、諸見里教育長 沖縄県P伊敷会長

第37回全国小・中学校PTA広報紙コンクール作品募集



第37回 全国小・中学校PTA広報紙コンクールの募集要項が決定しました。このコンクールは、日本PTA全国協議会傘下の公立小・中学校で発行するPTA広報紙作品を広く募集し、優秀作品を表彰・公開することにより、PTA広報活動の活性化を促進し、PTA活動の一助となることを目的としています。

ぜひ皆さんの学校の自慢の広報紙をご応募ください。たくさんのご応募お待ちしております。

〈応募の対象となる広報紙〉

平成26年4月から平成27年3月までに発行されたすべての号をお送りください。ただし、原則として年間を通じ2回以上発行されたものに限りません。現状のままでも送付してください。(複製やコピーは不可、CD不可、補強のための表紙などは付けないこと)

〈募集期間〉

各単位PTAは、平成27年6月1日までに、各地方協議会へ送付。

〈審査基準〉

PTA広報紙のもつ目的・使命・記事の内容・編集方法・レイアウト・見出し・文章などについて「優秀作品の賞」を総合的に審査します。

文部科学大臣賞(最優秀賞・小/中学校各1点)、公益社団法人日本PTA全国協議会会長賞、日本教育新聞社社長賞、教育家庭新聞社社長賞、特別表彰式

賞(企画賞・写真賞・レイアウト賞)、佳作表彰式は、平成27年度 年次表彰式で行う予定。

【平成27年11月19日(木)ホテルニューオータニ 予定】

〈その他〉

- 応募作品は返却いたしません。
- 入賞作品は、日本PTA機関紙及び日本教育新聞に掲載する予定です。
- 受賞作品については「平成27年度版優秀広報紙集」として発刊する予定です。

尾上会長が防災教育テーマに対談

(財)防災検定協会 平野理事長と



(財)防災検定協会 平野理事長と尾上会長

尾上浩一会長は2月25日、「ジュニア防災検定」(JB)

(K)を主催している一般財団法人防災検定協会の平野啓子理事長と、家庭や地域の防災教育をテーマに本会事務局で対談を行いました。

この検定は小中学生を対象に、防災の基礎的知識を問うペーパーテストの他、事前・事後の課題に取り組むことで日頃から防災への意識を高める目的。学校や自治体などの

単位で受検する団体受検は、会場や時期を希望に合わせて実施することが出来ます。文部科学省をはじめ関係省庁や公私立校長会などが後援、日本PTA全国協議会も昨年末に後援を決定しました。

対談では阪神淡路大震災や東日本大震災への日Pの支援事業や、尾上会長の体験から大人の防災意識を高めることも大切だという意見などが展開されました。

対談内容は(財)防災検定協会ホームページ(www.jdka.jp.net)をご覧ください。

つながり、学び合うPTA活動

子どもたちの笑顔のために

一般社団法人東京都小学校PTA協議会(都小P)は、昭和23年に発足し、昭和63年に社団法人として認可を受けました。公益法人制度改革に伴い、平成24年度からは一般社団法人として、東京都教育委員会(以下都教委)、東京都公立小学校長会をはじめ関係諸団体との連携を深めつつ、子どもたちの健全育成、教育の質の向上、家庭教育の充実のために、情報の発信やさまざまな事業を行っています。

全国でも東京都のPTAだけが小、中で協議会が分かれていますが、東京都の公立幼小、中、高PTA各協議会による連絡協議会を2カ月に一度開催し、幼稚園児から高校生までの共通のテーマによる都教委委託事業「PTAリーダー合同研修会」や都教委次長、各部長との教育懇談会を

毎年開催しています。ここには、定通PTA、特別支援学校PTAも招き、情報交換をしながら強い結束のもと、東京都の子どもたちの健全育成に一緒に取り組んでいます。

では、都小Pの活動の一部をご紹介します。

▼学び考え今後に活かす研修事業

タイムリーなテーマをとりあげ、都教委委託事業「小学校PTAリーダー研修会」を毎年実施しています。特に重点を置いているのは、低年齢化の傾向にもあるインターネットや携帯、スマホに関わる問題です。年々新たな課題が生まれるので、所持率が増える中学生になる前に、保護者が知識と情



「私たちの先生」表彰式で自慢の先生を紹介する子供たち

報を持つことが重要です。26年度は、ネット依存と家族のふれあいをテーマに講演会を行いました。

自主事業として実施している「子育て支援勉強会」では、行政の施策や取り組みを学ぶ機会としていきます。26年度は、「特別支援教室」と「道徳教育」について、都教委の取り組みを聞き、理解を深めました。

▼「保護者と先生の意識調査」

会員の関心が高い内容、会員に知ってほしい事柄などを調査項目として毎年、実施している「保護者と先生の意識調査」は、都内の保護者と教員約2000名から回答を得ています。会員が共に考える機会とするため、結果から見える現状や問題を学識者の講評とともに年2回発行する広報紙上で報告しています。

保護者と教員の意識の違いがはっきり表れる項目もあり、メディアにもたびたび取り上げられるなど、大変興味深いものとなっています。

▼「私たちの先生」表彰

都小Pならではの事業として、「私たちの先生」表彰があります。これは、都内小学校の保護者と児童から推薦された、「子どもたちが出会ったよかった」と思う先生方に感謝状を贈るものです。推薦される先生は、ベテランの校長先生、若い先生、養護や栄養士の先生などさまざまです。

表彰式では、先生方と児童、保護者との信頼関係が伝わってきて、会場はとても温かい空気に包まれます。

ごく一部の活動しかご紹介できませんでしたが、都小Pの活動は広報紙に掲載しています。都小Pホームページのメニューから広報紙をぜひご覧ください。(URL <http://www.ptatokyo.com>)



文部科学省にて行われた優秀作品表彰式

楽しい子育て三行詩

- ◆小学生の部
 - 一人でご飯をいただきます(飯)
 - 二人で食べるとおいしい(飯)
 - 家族で食べると楽しい(飯)
 - 山口 健太郎(徳島県美馬市小学校6年)
- ◆中学生の部
 - 妹が俺が怒られてるのに隣で泣いてくれてありがと(う)
 - そのイチゴ俺のぞろ
 - 橋本 駿介(宮城県富谷町中学校2年)
- ◆一般の部
 - 同じように育てても同じようには育たない
 - 子供の数だけ楽しみがあり子供
 - 宝来 典恵(鹿児島県鹿児島市厚生労働大臣賞)
 - ◆小学生の部
 - おかあさん(は)より(じ)より(お)とうさん(は)し(ゆ)り(じ)より(お)とう(は)ぬ(り)え(じ)より(お)とう(は)ほ(く)は(め)じ(よ)う(ず)
 - 北井 巧磨(岐阜県海津市小学校2年)
 - ◆中学生の部
 - 「来ないでよ」言ってるわりには 母探すてれくさいけど ありがたい 日よう参観
 - 牟田 あかね(鹿児島県鹿児島市中学校2年)



- 市 中学校2年)
 - お風呂で校歌 孫とおじいちゃん 大熱唱
 - 菅澤 順子(宮城県仙台市公益社団法人日本PTA全国協議会会長賞)
- ◆小学生の部
 - つらい時 かぞくにはなして なやみゼロ
 - 菱川 心愛(広島県広島市小学校2年)
 - ◆中学生の部
 - あんたはなあんたのままでいいんやで 他人(ヒト)の言うこと気にするな
 - 母の言葉にすくわれる
 - 塚腰 歩未(岐阜県高山市中学校2年)
 - ◆一般の部
 - ついにこの日が来た 息子の お下がり俺が着る
 - 橋本 信一(宮城県富谷町)

※ 詳細はホームページをご覧ください。

学校の窓から

シリーズ65

我が校は、東海道五十七次の守口宿として歴史ある街の学校です。生徒数21名、創立58年目の今年度末で閉校し、来年度からは統合新校の樟風中学校に移行します。新校設立と閉校準備で忙しいですが、PTA役員とは「すべては生徒のために！」を合言葉に、最後の一日まで学校改善を推進していくことを掲げています。

特色あるPTA活動には、『生徒会とPTAの交流会』が挙げられます。生徒代表である生徒会と保護者代表のPTA役員が、和気あいあいの中、「より良い学校づくり」を話し合う場です。第1回交流会では、生徒会から生徒総会での要望について、PTA

からは地域行事への参加依頼が話されました。その結果、PTAは速やかに予算面を支援し、生徒会は夏休みに開催された地域行事の「夏祭り」と「親子カーニバル」に生徒会執行部が参加してPTAと合同出店しました。初めは、生徒会の声を活かしたPTA予算の効果的な執行をするために始めた交流会でしたが、協議を深める中から、合同出店の話や環境整備活動を共同作業で行うことも始まり、生徒が談笑できる中庭への「憩いの場」の設置や門扉のペンキ塗、体育大会と卒業式前の合同整備活動など、徐々に成果を上げています。また、交流会活動から、学校改善を生徒・保護者・教職員が協働していく気風が立ち上がっています。

この良きシステムを樟風中学校に繋げていきたいものです。

平成26年度 PTA実践事例ガイド (通巻28)



全国のPTA活動をまとめた平成26年度「PTA実践事例ガイド」(通巻28)を発行しました。このガイドは、これまで隔年で行われてきた「PTA実践事例集」をさらに見やすく、活動の情報をあますところなく網羅した最新版です。子どもたちの健やかな成長のために日々尽力している全国の仲間たちからの熱いメッセージです。全国から情報をいただいた全ての都道府県協議会のPTA活動を掲載しました。

発行してきた「PTA実践事例集」をさらに見やすく、活動の情報をあますところなく網羅した最新版です。子どもたちの健やかな成長のために日々尽力している全国の仲間たちからの熱いメッセージです。全国から情報をいただいた全ての都道府県協議会のPTA活動を掲載しました。

フルカラーA4版とワイドになって新登場！
ご活用ください！すぐ実践できるPTA活動事例満載！

この程発刊の運びとなった、平成26年度「PTA実践事例ガイド」は、全国の各都道府県協議会から情報提供いただいた全ての単位PTAなどの活動事例を掲載しています。PTAの規模や地域の違いこそあれ、子どもたちの健やかな成長のためのPTA活動という気持ちは、皆さん共通の願いです。「あっ、おもしろい活動しているな。うちのPTAでもできないかな?」「これやってみたいかったんだけど、こんなノウハウがあるんだ!」など、あなたのPTA活動の活性化のための参考になれば幸いです。製作した私たちの大きな喜びになります。

ぜひ、「PTA実践事例ガイド」で、あなたのPTA活動を充実したものにしてください。平成26年度「PTA実践事例ガイド」! お問い合わせは、日本PTA全国協議会事務局まで。

委員会活動報告

総務委員会

総務委員会は、毎年決まった活動の形を継続しているのではなく、今日的なPTA課題への取組、会長の諮問機能的な役割、年度中に新しく発生した事案を各委員会に割り振りながら、次年度の取り組みテーマの参考となる事からの取りまとめなど、日本PTAの根幹を支える委員会です。

本年度は特に「いじめ防止対策推進法、第9条保護者の責任」にフォーカスし、いじめに関するこれまでの日本PTAの取り組み、全国の保護者による取組事例、活動指針など、現総務委員からの最新情報を発信するべく活動を行っております。



教育問題委員会

教育問題委員会は日々変化する環境において、PTAとしてどのような対応ができるのか、どのように問題を解決していくべきか議論を重ねてきました。

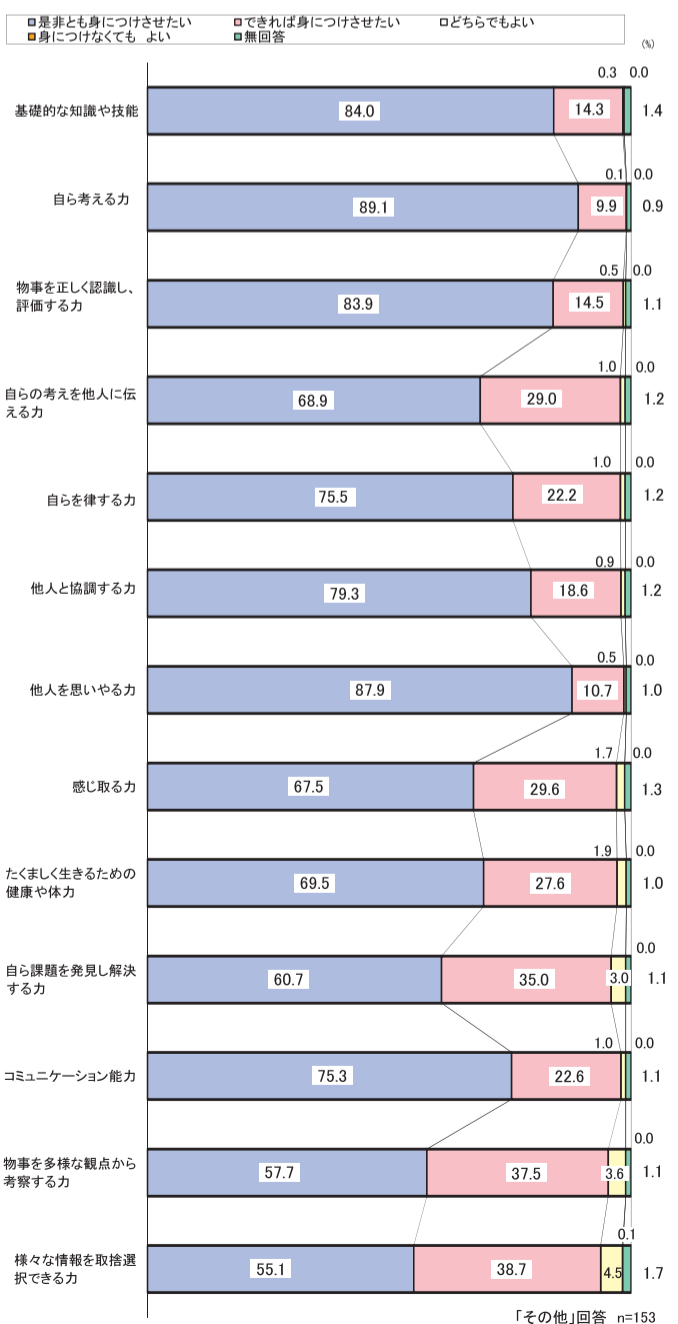
また、全国規模で行っている平成26年度「教育に関する保護者の意識調査」は、前年度に設問が一新され、5年を一括りとして調査することになり2年目の調査となりました。

同じ設問を5年間取り続けることで、保護者の意識がどのように時流によって変化していくかが非常にわかりやすくなります。教育問題委員会により、調査結果をわかりやく分析し、より簡潔に状況把握ができる、各協議会のPTA活動に役立つ分析した調査報告書は日本PTAのホームページで公開いたします。

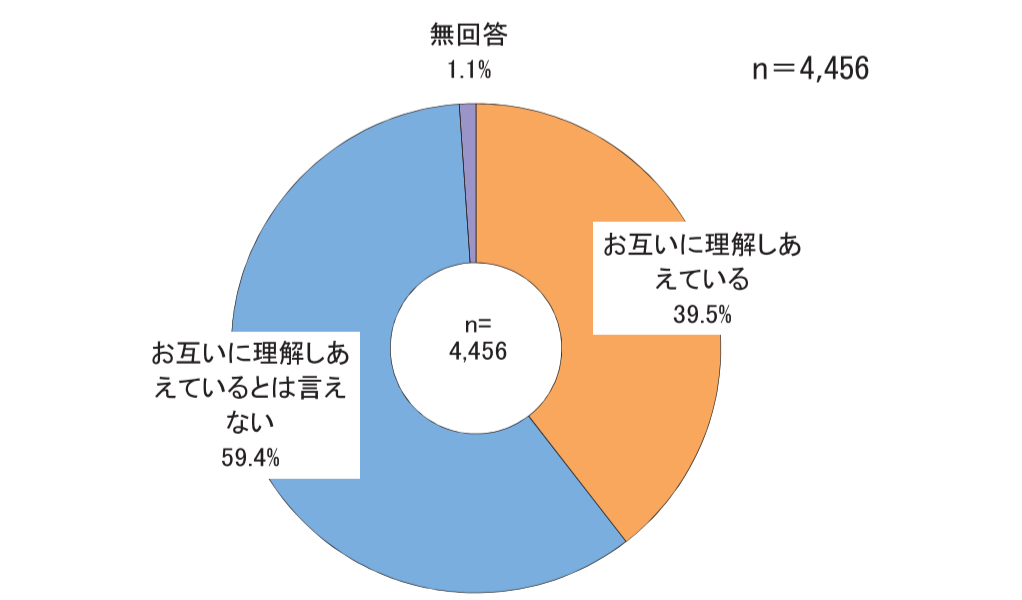
ぜひ全国の皆さんにこの調査書を手にとっていただき、

全国規模の調査報告書と各地方協議会の調査報告書比較し、それぞれの立場で教育のあり方や、PTA活動について考える資料として活用していただきたいと思います。幅広く各単位PTA会長、保護者向けのセミナーや講演会資料・広報紙の資料としてご活用ください。

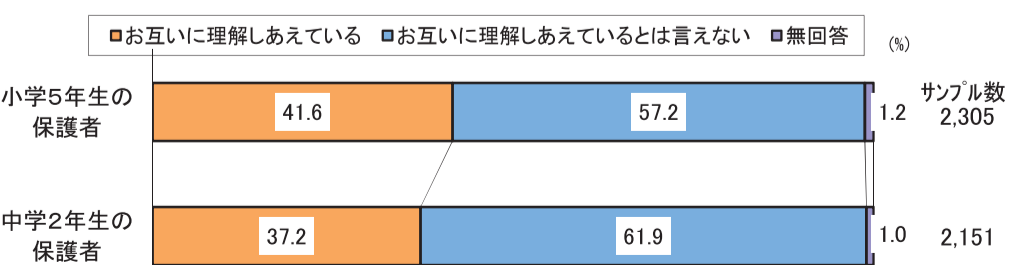
[子どもに身につけさせたい能力] <保護者全体>



[災害発生時、学校外にいる子どもの避難行動を保護者は共通理解しているか] <保護者全体>



<小学生・中学生保護者別>



環境対策委員会

子どもたちの間で携帯電話やスマートフォンの急速な普及に伴い、青少年が犯罪、トラブル、いじめ等に巻き込まれる事例が後を絶たないことやスマートフォンの過度の依存が問題となつていきます。私たちは何を子どもに伝え、何から守らなければいけないのか、保護者としての役割と責任が問われる時代になっていきます。

環境対策委員会では、昨年度提言した「青少年のインターネット利用」に関するアピールを、より家庭や学校で実践していけるよう、インターネット利用を正しく行つためのリーフレットを作成しました。

また、今回で12回目となる「子どもとメディアに関する意識調査」が、全国の皆様のご協力により完成致しました。この調査書では、現在の子どもたちや保護者のメディア、とりわけインターネット

利用に対する認識の相違が明確に見て取れるものとなっています。保護者が思っている以上に、子どもたちはインターネットに深く関わっており、危険と隣あわせとなっている現状が見えます。

インターネットに接続する機械は携帯電話だけではなく、パソコンやタブレットなど、あらゆる機器がインターネットに接続でき、インターネットに接続できる機器をそのまま子どもたち

に与えるという事は、大人と同じ情報を入力できることであり、トラブルに巻き込まれる可能性があるとい

つてです。私たち保護者はその危険性を十分認識し、子どもたちに便利さの裏に潜む危険性をしっ

かり伝え、年齢にあった適切なフィルタリングをする必要があります。

メディア調査書は全国の小学校5年生・中学2年生、そしてその保護者の方を対象に行われました。現在の高度な情報世界を生きていくなかで、不安を覚えながらもどついたらよいかわからない保護者の方も沢山います。

是非この調査書を参考にし

て頂き、単位PTAや郡市P連さんの研究会や勉強会で、また広報紙の調査のサンプルとしても広く活用ください。

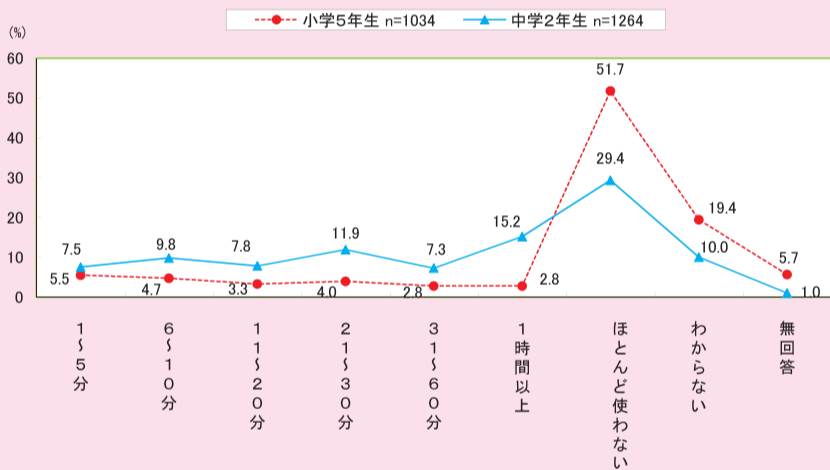


インターネット利用を正しく行うためのリーフレット 表裏

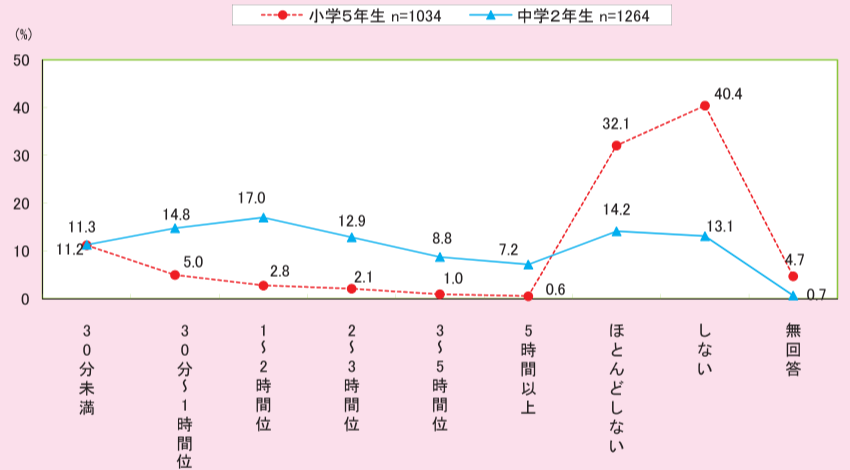


「子どもとメディアに関する意識調査」より ~携帯電話・スマートフォンの利用状況について~

【1日のWeb サイト閲覧時間】



【1日のSNS (ラインなど) 使用時間】



厚生委員会

楽しい子育て全国キャンペーン「家庭で話そうー我が家のルール・家族のきずなを大切にする」について、三行詩で表現してみよう。

これは、文部科学省と日本PTA全国協議会の共催事業として取り組んでいる家庭教育支援事業です。

家族の会話やコミュニケーションから育まれるきずなや家庭のルール、子どもたちの基本的な生活習慣づくりなどの家庭教育の大切さを見直すために始められました。平成26年度からは、厚生委員会からの提案で、昨今のいじめ問題(いじめ対策防止推進法や児童虐待等の増加を踏まえ、新たに「命の大切さ」をテーマに追加して頂きました。

厚生委員会では、三行詩の作品募集を通じて、保護者と子どもが同じテーマに取り組み、お互いの愛情の深さに気づき、そのことにより家族のきずなが更に深まると確信しております。

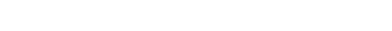
おかげで、今年は、昨年より2万件も多い12万6252作品の応募があり、この取り組みが多くの方に広がり、厚生委員会の活動がその一翼を担っていることに、喜びを感じております。

それには、食育の問題、防災対策などについても、厚生委員会で検討しています。今後も、子どもたちの健全なる成長の為に、幅広いテーマに取り組みでいきたいと思っております。ご支援・ご協力を宜しく願います。

日本PTA全国協議会会長賞 中学生の部



日本PTA全国協議会会長賞 一般の部



日本PTAとは

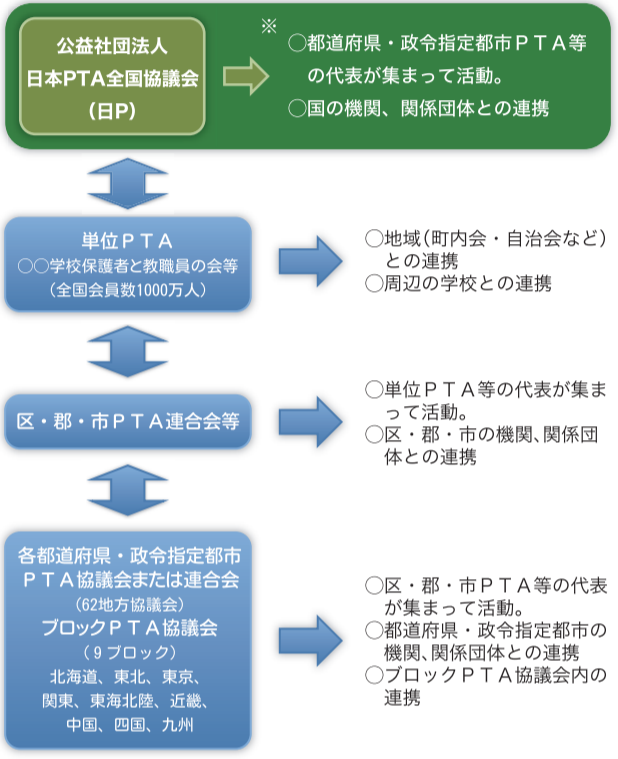
今年はいよいよPTAに携わったみなさんにとって、日本PTAは身近ではないかもしれませんが、日本PTA全国協議会(日P)のご紹介をしたいと思います。

日Pは、各都道府県・政令指定都市PTAの代表が集まり、子どもたちの心身に健全な成長を図るため、全国に共通する課題について話し合い、国の機関や関係団体とも連携しながら、社会教育や家庭教育の充実に向けて取り組んでいます(図※)。

新潟市P連をお迎えし、加盟協議会は62に!

平成27年4月1日より、新潟市が日Pに加わり、日P加盟協議会数は62になります!

各PTAの関係



第63回日本PTA全国研究大会 札幌大会

第62回日本PTA北海道ブロック研究大会

◆大会趣旨

ようこそ! 笑顔あふれる緑豊かな北の大地へ!

今、子どもたちの取り巻く社会環境は複雑化し、多くの課題や問題点が指摘されています。このような環境の中で私たちPTAはその活動の難しさを感じつつも果たすべき役割は増してきています。「次代を担う子どもたちのために」これまでのPTAが持つ課題、今PTAができること、これからのPTAがしなければならないことについて共に学び合ひましょう。

全国の家・学校・地域が手をつなぎ思いを紡ぐことで、PTAの未来を道都札幌から発信いたします。

◆大会スローガン

ひろがれ 子の未来! つながれ 親力!

～今 札幌から始まる これからのPTA～

- 分科会: 8月21日(金) 9:30~16:00 札幌市内10分科会会場
- 全体会: 8月22日(土) 9:15~12:35 北海道立総合体育センター (9:00~9:15 北海道ブロック研究大会札幌大会を開催いたします。)

● 参加費 5,000円

8月22日(土) 全体会記念講演
倉本 聡 氏

1935年、東京都出身。脚本家、東京大学文学部英文学卒業。1959年ニッポン放送入社。1963年に退社後、脚本家として独立。1977年、富良野に移住。1984年、役者やシナリオライターを養成する私塾・富良野塾を設立(2010年閉塾)。現在は富良野塾卒業生を中心に創作集団・富良野GROUPを立ち上げ、舞台公演を中心に活動。代表作は『北の国から』『前略おふく様』『うちのホンカン』『昨日、悲別で』『優しい時間』『風のガーデン』(以上TVドラマ)『明日、悲別で』『マロース』『ニッポン』『蘭語』『夜想曲-フクター-』(以上舞台)『駅 STATION』『冬の華』(以上映画)他多数。2006年よりNPO法人富良野自然塾を主宰し、閉鎖されたゴルフ場に植樹をし、元の森に返す自然返還事業と、そのフィールドを使った環境教育プログラムにも力を入れている。

そよ風通信

新年度に入り、はじめてPTAになりこの新聞を手に入れている方も多いのではないでしょうか。今回のそよ風通信は皆さんの先輩であり、現役で単P、区・郡・市P、県Pで活躍されている日本PTA広報員の皆さんに「PTA役員」について伺いました!

ようこそ、PTAへ!

私たちが子育てする現代社会には情報が溢れています。指先ひとつで欲しい情報が取り出せる情報化社会にあっても、子どもを育てる環境には人と人との繋がりや人の温かさが必要です。

昨今のニュースを見るにつけ、子どもたちには、何が正しくて何が間違っているか必要なことを判断する力や、自分を守り他者を思いやる「生きる力」を身につけて欲しいと切に願います。

子どもたちが育つ環境を安全でよりよいものにするために、保護者同士や学校や地域がよい関係を築き、その地域に合った生きた情報を享受することが大切です。子どもPTAは生涯学習の扉です。子ども

もと一緒に保護者も成長できるように、楽しく無理のない活動を続けていきたいと思います。

ようこそ、PTAへ!

PTA役員を引き受けること

子どもが通う小学校でPTA役員(会長)になって5年が経過しました。毎年、この時期に「役員、決まりましたか」「どうやって候補の方に声を掛けていますか」などの質問を近隣小学校PTA役員の方から頂きます。どの学校も役員選びには苦労されていると思います。私の事を振り返ると、PTA役員を引き受けたという判断が一番難しく、悩ましい決断でした。誰も経験したことがない事に不安があります。PTA活動をする中で負担が増えるのではという心配もあると思います。私はそんな思いと葛藤しながらもPTA役員を引き受け良かったと思えることがたくさんあるのですが、なかでもPTA活動を通して子どもが通う小学校の保護者だけでなく、近隣小学校のPTA役員まで交友関係が広がり、同年代の子どもを育てる父親の苦悩や意見を聞くことができて、子どもへの教育に対する視野が広がったことで私自身、成長できたように感じます。これ

から役員になられる皆様、頑張ってください。

ブロック研究大会運営に携わって

関東ブロック研究大会?と聞いて、なかなかピンとくる方はいないだろうと思いますが、私もその一人です。(※PTAの組織については、左上の記事をご覧ください)市Pの役員になったもの、さて、何から始めていいのかもわからず、手探りで分科会を仕上げるとはと途方に迷った。逃げ出した気持ちになりました。そんな時、広報委員になりました。そんな中で、運よくブロック大会のお話の者がいることがわかりお力を貸していただきながら、柱一本から枠組みをつくり形にしていけることを楽しんでいくようになりました。ひとつの目標に向かい活動していく中で、たくさんの方々と会えたご縁に感謝したいと思えます。

時代の変化とともに、ライフスタイルが変わっても子どもたちを思う親の気持ちは普遍的なものです。子どもたちの笑顔を守れるのは大人の役目でもあると思います。これからも、各地のブロック大会を通して多くの皆様に、子育てを学ぶ機会を与えていただきたいと思います。

公益社団法人 日本PTA全国協議会

http://www.nippon-pta.or.jp

『日本PTA新聞』のお知らせ

『日本PTA新聞』は、日本PTA全国協議会の広報紙で、年3回(概ね、8月、12月、4月)発行されています。日Pの行う全国研究大会、年次表彰式、国際交流事業などを紹介しています。このほか、「学校の窓から」(先生方による学校紹介)、「県P自慢」(都道府県P、政令指定都市P等の紹介)など、他校や他都道府県のPTA活動の様子を知ることができる紙面もあります。

隅から隅まで見落とすことのできない情報がたくさんありますよ。